

今も残る地域の人々が 守り紡いできたもの

ここ下手渡地域にも、地域の人々が引き継ぎ、守り続けてきたものがある。

それは、地域の人々の日常生活や日々の生業、そして地域の風土から生まれたもので、守り続けられてきたわけが一つ一つに込められている。

遠い昔から守り続けてきたもの、新たに続け始めたものには、人々が大切に紡いできた文化と心がある。

下手渡藩陣屋跡の東側山あい建つ山神碑



山仕事の無事を見守る山神様 ～樋ノ口の山神碑～

下手渡藩陣屋跡の東側山あい、自然石の上に置かれた山神碑がある。昔、4人の侍がキツネ狩りで山に入り、道に迷い、帰れなくなったとき、山神様に祈ったところ無事に下山できたことを感謝して建てられたものと言われている。

今も山仕事やキノコ狩りに行くときなど、ここで手を合わせ、お参りする人々がいる。

下手渡藩陣屋跡の東側に赤い屋根のお堂が見える。地藏尊を安置する地藏堂である。背中に赤ちゃんをおんぶしている胎内仏で、子育てのお地藏様と言われている。

天平地区の方々が集まり、10月14日にお祭りを行っている。前日の13日は女の人の宵祭り。地藏様には、新しい頭巾やよだれ掛けを奉納。当日は男の人の本祭り、御祈禱後、一人一菜を持ち寄り、酒をいただく。

背中に赤ちゃん胎内仏 珍しい子育て地藏尊 『天平の地藏尊』

この地域にも、野や路傍の一隅に野仏を見ることができる。風雨にさらされて幾星霜。黙して語らない石仏や石塔は、今の私たちに何を語りかけようとしているのだろうか。私たちはこの遺産を大切に保存していきたい。

先人たちが手を合わせ
守り続けてきた石仏や石塔
今も地域の人々を見守っている。



赤頭巾やよだれ掛けを身にまとう地藏尊

学問書道の神様 ～天平の文殊菩薩～

天平の地蔵堂から左手の小径を登った山頂に石の祠がある。中に蚕神と並んで文殊菩薩の石像が安置されている。

藩主の立花侯も信仰したと言われ、昔から崇拝されてきた。

学問の神、書道の神として人々の信仰を集め、地域内外からの参詣者がある。



学問の神として信仰を集める文殊菩薩。
高校や大学入試合格祈願札が奉られている。



朝日地蔵尊が安置されている祠

いっしょにも子育て地蔵 坂本の朝日地蔵尊

朝日地蔵尊は、下手渡坂本地内にある小さな祠に安置されている。明治中頃、下手渡小学校が建設された際、土の中から地蔵様が見つかり、この地に祀ったと伝わる。
名称の由来は色々な説がある。地元で朝日が一番早く当たることから名づけられたのではないとも言われている。子育て地蔵とも言われ、女性の参拝も多い。

子ども風邪全快祈る

風邪引き地蔵

下手渡根廻地内の路傍の一隅に風邪引き地蔵が建っている。一見、供養塔のように見えるが、言い伝えによると、地蔵の尊体は、土中に埋没し、その代わりのもの。地蔵建立のいわれは、田植えの中で、子どもを亡くした母親の悲しい話が伝わっている。子どもが風邪を引いたときに地蔵を稲わらの菅で縛って全快を祈ると霊験あらたか（ご利益がすぐに現れる）とのことで近隣の信仰を集め、現在でも菅縄が見られる。



霊験あらたかと伝わる風邪引き地蔵

緬羊事業の発祥の地

坂本の緬羊記念碑

市道上手渡線入口に、緬羊事業の発祥の地を記念して緬羊記念碑が建っている。

大正9年、旧小手村の坂本稀三氏らが緬羊の共同飼育を始めた。その後、小手郷殖羊組合を設立し、事務所を下手渡に置き、伊達郡内に緬羊飼育を広め、全国にその名をとどろかせた。



緬羊飼育の先駆者としての業績をたたえる緬羊記念碑

現在では、緬羊の姿を見ることがなくなりましたが、当時は、ほとんどの農家で緬羊が飼育され、福島県は羊毛生産全国一であった。石碑には、その隆盛の基盤を作った先人たちのたたえる事績を刻んでいる。

今も穀倉は現役 ～明治時代の建物～

今では懐かしい穀倉が下手渡蟹沢の長根陸郎さん宅にある。この穀倉は、明治中頃に建てられたもので、当時のまま保存されている。

建物の外側は、湿気や暑さ対策のため、杉材を二重に使用している。内側は、ネズミに強いモミの木を使っている。今でも使用している。



明治時代に建てられた穀倉は今も現役

八雲神社のケヤキ 樹齢700年

下手渡の村社「八雲神社」境内に樹齢700年とも言われるケヤキの巨木がある。幹回り7メートル、中は空洞となっている。ご神木として管理している。また、神社の造作



ご神木とされているケヤキの大木。中は空洞



本殿正面に施された竜の彫刻

は荘厳で優美。正面の竜やその他の彫刻のすばらしさは他に例をみないほど。本殿の建築も結構を極めて



どんと祭や餅つき で触れ合う

下手渡地域では、毎年、どんと祭や餅つきなど、伝統行事を体験しながら世代間交流や地域の絆を深めている。



写真は餅つきを体験する子どもたちとお札や正月飾りをたき上げ無病息災を願ったどんと祭

伝統 行事

祭り
は
地
域
に
貢
献
！
地
域
文
化
や
伝
統
を
伝
え
る
地
域
の
結
束
を
高
め
る

八雲神社祭り 一番の賑わい

八雲神社は、下手渡を一望に収める景勝の地に鎮座、下手渡の村社。全戸が氏子となっている。祭礼は、旧6月14日であったが、今は小中学校の夏期休暇に入った最初の日曜日に行っている。

毎年、子ども神輿も出て、地域内を練り歩く。夜は、子供会の出し物、地元婦人会の踊り、プロ歌手による歌謡ショーが行われ、地域外からも大勢の皆さんが訪れ、一日中賑わう。

8月14日は盆踊り

下手渡地域では、毎年、8月14日に納涼盆踊りを行っている。帰省された人も参加し、故郷談議に花が咲く。

写真上は神輿と一緒に練り歩く子どもたち

地域活動



道路沿線にマリーゴールドやサルビアなど草花の植栽作業を行う地域の方々

地域全体で花いっぱい運動
花は行き交う人々を和ませます。
 ～道路沿線への植栽手入れ～



つきだてリリーフェスタの原点「やまゆり鑑賞会」

「早朝から作業いただき、お疲れさまでした」。自治会長の労いの言葉が幾度となく聞かれる。今年も地域の皆さんの手によって、草花で沿線を彩る。

行き交う人々を和ませる。地域のもてなしの心でもある。地域のアイデアで、旧月館町の花である「やまゆり鑑賞会」を始めた。この鑑賞会は「つきだてリリーフェスタ」の原点でもある。平成23年の大震災以降は、開催を控えている。

学童を見守る清掃活動
 ～今年で48年目迎える～



下手渡小学校が統合された昭和40年4月から、バス通学となった学

童を見守るため、婦人会が中心となつてバス停留所の清掃活動を行っている。今でも毎週1回、欠かすことなく続けている。(写真)



陣屋跡の整備作業
 ～地域総出で行う～

下手渡藩陣屋跡を多くの皆さんに見ていただきたい。この思いが地域総出の陣屋跡整備作業に至った。当日は通路の雑木伐採や除草作業を行った。(写真)